

教 育 資 料

平成9年度第2号

# コンピュータを活用した学習指導の在り方

高等学校（第2集）

平成10年3月

京都府総合教育センター

# 刊行に当たって

21世紀を目前に控え、国際化や情報化、高齢化などが急速に進展する社会の中で、教育はその質的変革を迫られています。学校においては、生涯学習の基礎を培うという観点に立って、社会の変化に主体的に対応できる心豊かな人間の育成に努めなければなりません。

中央教育審議会は、これからの社会に求められる資質、能力を「生きる力」と位置付け、主体的に判断し問題を解決する能力や、他人を思いやる心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力が必要であると強調しています。そして、高度情報通信社会を生きる子どもたちに、情報に埋没することなく、情報や情報機器を主体的に選択し活用するとともに、情報を積極的に発信するための基礎的な資質や能力、すなわち情報活用能力を育成していくことが重要であると示しています。

当総合教育センターでは、一人一人の生徒に情報活用能力を育成する方策を探り、学習指導の工夫改善を図るため、研究主題を「コンピュータを活用した学習指導の在り方」と設定し、平成8年度から2年計画で研究を進めてきました。平成8年度は、主として研究主題に関する理論研究を進めるとともに、当総合教育センターが実施した教科教育関係講座の中から、コンピュータ活用に関連する事例を通して実践研究を行いました。平成9年度は、府立高等学校の教諭を研究協力員に委嘱し、数学科、理科、芸術科美術、英語科における具体的な実践事例を示すとともに、研究連絡会議を設置し、より実践的な研究を進めてきました。本教育資料は、これらの研究の成果と課題をまとめ、コンピュータを活用した学習指導の在り方について、具体的な方策を示したものです。

コンピュータを活用することによって、一人一人の生徒が、それぞれの発達段階に応じて、主体的に学習できるようになるなど、情報教育を充実することは、個を生かす教育を推進し、指導方法の工夫改善を図る上で大きな役割を果たすことにもなります。とりわけ、高等学校段階では、生徒の個性や能力等がより一層多様化する時期であり、一人一人の生徒の長所や特技等の十分な伸長を図るとともに、自ら情報を発信するなど、社会人として必要な資質や能力を育成することが求められます。

今日の学校教育の現状を見ると、情報教育の在り方については、いまだ確立されたものとはいえません。情報教育は、一人一人の教員が積極的にコンピュータを活用し、実践を積み重ねていく中で、一定の成果をあげ、それらをもち寄り、問題点や課題を整理し、交流することによって発展していくものと考えます。

各学校におきまして、この教育資料が有効に活用され、日々の授業が一層充実したものになるよう期待します。

平成10年3月

京都府総合教育センター

所長 池山良武